

令和4年6月定例会

文教厚生委員会記録

- 開催日時 令和4年6月24日（金曜日） 午前10時00分から
- 場 所 全員協議会室
- 付託案件 議案第25号
専決処分の承認を求めることについて
（有田市国民健康保険税条例の一部を改正する条例）
議案第26号
有田市国民健康保険税条例及び有田市介護保険条例の一部を
改正する条例
- 出席者
出席委員 池田敦城委員長・中西登志明副委員長
西口正助委員・宇野博治委員・児嶋清秋委員
成川 満委員・上野山善久委員

中谷桂三議長
- 当 局
市民福祉部 宮崎三穂子市民福祉部長・大松満至市民福祉部理事
児嶋利樹市民課長・石井哲也生活環境課長
御前一晃福祉課長・南村尚史福祉相談室長
網谷彰洋保険年金課長・桃井克博健康推進課長
石井義人高齢介護課長・桑原伸浩市民課主幹
宮井美恵福祉課主幹・上野山猶哉保険年金課主幹
福田典久介護保険係長
教育委員会 伊藤正人教育次長・松村尚彦教育総務課長
嶋田実明生涯学習課長
水道事務所 北野宏幸水道事務所長・馬倉三喜水道課長
総合行政委
員会事務局 森川直子局長
出 納 室 森川高行会計管理者
議会事務局 田中 聡局長・福永康一次長・大谷真也書記

開 会

○池田委員長： 開会挨拶

○網谷課長： 議案第 25 号
専決処分の承認を求めることについて
(有田市国民健康保険税条例の一部を改正する条例) の説明

○池田委員長： 質疑を認めます。
ご質疑ありませんか。

○委 員： なし。

質疑終了 採 決 (承 認)

○網谷課長： 議案第 26 号
有田市国民健康保険税条例及び有田市介護保険条例の一部を
改正する条例の説明

○池田委員長： 質疑を認めます。
ご質疑ありませんか。

○委 員： なし。

質疑終了 採 決 (可 決)

付託案件終了

○池田委員長： ほかに委員の皆さんから何かありませんか。

○成川委員： 付託案件は終わりましたが、教育委員会にお聞きしたいことが
ありますので、いいですか。

○池田委員長： どうぞ。

○成川委員： 小学生のランドセルについて、ものすごく重いので、子どもが
かわいそうで、なんとかならないのかということをよく聞きます。調べてみ
ると、4年ほど前に文科省から、いくつかの指針を基に各教育委員会で対応
を考えていただきたいと通達のような形で出されているようです。

実は、僕もランドセルを提げてみました。「重いわ。」加えて手提げ袋、これも重い。総重量は相当あると思います。これについては教育的な見地からいろんな議論、考え方がありますが、有田市教育委員会はどのような対応、見解を持っているのかお聞きしておきたいと思います。

○松村課長： 今、委員がおっしゃられましたように、重すぎるランドセル問題と言いますか、マスコミ等を賑わせております。ランドセルをキャリーケース化できる商品が販売されているようです。先ほど委員からもありましたように、平成30年に文科省から、持ち帰る荷物について負担軽減するよう通達されております。それを受けまして、市教委から各学校に対しまして、同年9月に通知もしているところでございます。

そのときに国から示されております具体的な方法としまして、家庭学習に必要な教科書であったり、プリントであったりそういったものを机の中に置いて帰ることを認めるというようなことでありますとか、1日で多くの学用品を扱う場合には、数日に分けて持ってくるようにお知らせをしたりとか、保護者に来ていただくようなそういった通知がございました。

その通知を受けまして、教育委員会としても学校に周知をしまして、学校でも可能な限り、学校に置いておけるような物については、そのように指導をいただいていると思っています。

○成川委員： 経過、現状についてご説明いただきましたが、みんなが疑問に思っていることなので。

例えば、月に1回、最高の教育上の意思決定機関と言いますか、教育委員会が開催されていると思いますが、その教育委員会で、今言ったランドセルの重みについてをテーマとして話をされたことがあるのかどうかをお聞きしたい。

○伊藤次長： 昨年度からタブレットを用いての、ICTを活用した授業も非常に進んでおりまして、市内の小中学校でタブレットを子どもたちが毎日家に持ち帰っています。そういうことから、ランドセルについて、タブレットを持ち帰るようになって、重いという保護者からの声は何件か聞いておりますので、それについては話し合ったことはございます。

今、教科書とタブレットを併用する過渡期でもありますので、今後はデジタル化推進、進展ということで、将来的にはタブレットの持ち帰りだけで対応できる時代も来るかとは思いますが、現状におきましては、先ほど課長が申し上げた通り、置き勉と言いますか、教科書を置いて帰るのを認めておりますので、今後も負担の軽減になるように努めていきたいと思っております。

教育委員会内ではそういったことで議論したことはございます。

○成川委員： これについては、今新聞等で話題になっています。報道によると去年の5月に重さについて、実際に使っている子どもたちに調査した記録

があるらしいです。

それによると9割の子どもたちが常に重さを感じているという調査結果も出ています。その報道によると、4年前に各教育委員会で指針に基づいて対応策を考えていただきたくないと、もう少し文科省もきちんとしたものを出したらいいと思いますが、もう教育委員会に振っているのです。

ただ、報道で見る限り、全国の教育委員会でこの対応については、あまり進んでいないのが現状であると。具体的に先ほどキャリアケースの話、タブレットの重み等がありましたが、いろんなことをもう少し子どもの立場になって、実際こういう状況で、どうやって対応していくという議論をもう少し深めていただきたい。そうですかで終わってはいけないと思う。

特に、今大きなことを言えば、少子化対策、子育て支援、これをみんなお題目みたいにしないといけない大事なことだと言っていますが、具体的にそれぞれいろんな問題にもう少し議論を深めて、具体的な対策を行動として進めていただきたい。

特に、少子化対策、子育て支援、中身についてはこうですと胸を張って言えるような。このランドセルの重みについても、一つのテーマだと思うので、いろんな議論、いろんな意見はあると思いますが、今有田市の教育委員会はいろいろ話し合っていますが、このような見解ですと言って、保護者とか市民の方からの問い合わせ、質問があったときに、明確に分かりやすく答えられるように努力、対応していただきたいと思います。これは要望で終わります。

○池田委員長： ほかにありませんか。

○委員： なし。

○池田委員長： 当局からはありませんか。

○当局： ありません。

閉 会 午前10時17分